

平成 28 年度 第 1 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 28 年 5 月 18 日（水）18:30～20:15

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	9名…柏崎、澤田、岩堀、神津、西條、島田、妻沼、吉田、高橋
欠席者	2名…井上、永野
事務局	2名…市民生活課 山中、安陪
指定管理者	2名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 沼崎、山本
傍聴者	0名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 2015 年度事業報告
 - 3 NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 2016 年度事業方針・計画書
 - 4 夏の市民活動・ボランティア体験 2016 企画書・募集要項
 - 5 サポートセンターデータベース登録団体一覧・新規異動分
 - 6 平成 28 年度市民協働推進補助金交付団体一覧
 - ・ サポートセンターの平成 28 年度開催予定の企画案内
 - ・ キッズコーナー増設について

1 報告事項

1-（1）利用状況・利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から、資料 1 に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・平成 27 年度の利用者数は前年比 103.97%で、2009 年以降右肩上がりに増加している。
- ・ミーティングスペースと交流サロンの違いが不明瞭との声があったが、わかりやすくするためフレキシブルスペースをミーティングスペースへ名称変更している経緯がある。検討したい。
- ・多目的ルームは従前木材で床を底上げしてパソコンの配線を収納していた。のたろんフェア実施前に毎年板を外すのが大変だったため、現在は撤去している。安全な対応策を検討中。

（市民生活課：久里浜・追浜について）

- ・昨年秋頃まで特に追浜の利用者数減少が続いていたため、懇話会での意見を受けて、市施設内に利用促進のポスターを掲示した。1 月以降、順調に利用者数が伸びている。
- ・久里浜・追浜ともに、利用票にこれまで利用がなかった団体名の記載が見られ、ポスターの効果があつたものと推測できる。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・活動紹介コーナーの反響はどうか。

→横須賀でも中学校給食を実現する会の「給食フェスタ」など、タイムリーなテーマであると、メディアに取り上げられることもある。新聞記事等をきっかけに活動紹介コーナーを目当てに来館される方もいる。

横須賀日中友好協会の「児童絵画交換展」は、子どもの絵を家族が見にくるなど、展示によって反響はさまざま。（指定管理者）

- ・汐入のサポートセンターやその他市施設に、久里浜・追浜にも地域サポートセンターがあることを周知した結果、利用者が増加したのはよいこと。地域の活用にもつながると思う。

1-(2)平成27年度事業報告

指定管理者から資料2「YMCA コミュニティサポート 2015 年度事業報告」に沿って、報告した。一部、参考として NPO 法人 YMCA コミュニティサポートに関する事業活動の報告もあった。

- ・事業の棲み分けについて市と指定管理者で協議を行ったため、前年度までと振り分けが異なっている部分がある。

①サポートセンター管理運営事業（指定管理業務）について

- ・サポートセンターの運営に関して市と協定を結んで実施するもの。
- ・利用者数が過去最大の 47,158 人となった。
- ・従前より近隣4大学との連携を模索してきているが、県立保健福祉大学と関東学院大学は夏の市民活動・ボランティア体験などを通じて太いパイプができてきた。神奈川歯科大学とも一昨年頃からイベントを通じて連携がとれ始めてきている。また、現在はボランティア情報の紹介程度ではあるが、平成27年度からは横浜市立大学とのつながりもでき始めた。

②自主事業について

- ・サポートセンターの設置目的に合致した事業で指定管理者が自主的に行うもの。主に収益の見込める事業。

③法人独自事業について

- ・NPO 法人 YMCA コミュニティサポートが指定管理業務以外に行政から受託する業務、または補助金等の交付を受けて実施するもの。一部指定管理業務に関連する業務もある。
- ・生涯現役フォーラムや企業・NPO・大学パートナーシップミーティングなど多様な主体の連携による地域の活性化という部分には力を入れてきた。
- ・NPO 法人として市の市民協働推進補助金の交付を受けて実施を始めたプロボノ事業では、2団体の支援を行い成果物としてホームページを提供した。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・この事業報告書を NPO 法人の決算資料として県へ提出するのか。
→総会で可決されたものなので、このまま提出する。（指定管理者）
- ・事業ごとの数字は求められないのか。

→決算報告には財務諸表の注記を添付しなければならないため、定款に沿ってカテゴリーごとに報告をしている。個々のイベントごとの決算額は提出していない。

ただし、助成金を受けている事業については、助成金ごとの報告が必要になるため報告している。(指定管理者)

・決算額は正しいか。

→毎年県に正しい数字を報告している。平成 27 年度からは市の指定 NPO 法人となったので、市へも報告を提出する。(指定管理者)

1-(3)平成 28 年度年間事業計画

指定管理者から資料 3「YMCA コミュニティサポート 2016 年度事業方針・計画書」に沿って、報告した。

①サポートセンター管理運営事業（指定管理業務）について

・利用者に快適に利用してもらえる施設を目指していく。熊本地震のこともあったので、災害時における対応の体制整備にも注力していきたい。

・市民活動を行う人以外であっても、障がい者に休憩場所としてキッズコーナーを開放したり、子育て世代が活動しやすいように子どもを遊ばせておけるスペースを増設するなど、公の施設としての利用に配慮を行っていく。

・地域課題・社会課題の解決に向けてさまざまな組織との連携を進めているが、今年度新規で助け合い組織の支援事業を展開していく。まずは学習会の開催を予定している。

・貧困対策や子ども食堂などといった言葉が最近よく聞かれるが、横須賀でもそういった支援活動が芽吹いている。フードバンク活動についても支援を行っていきたい。

②自主事業について

・サポートセンターでの活動がしやすいように現在 YMCA コミュニティサポートが自主的に実施している事業。引き続き継続していく。

(懇話会構成員からの質問・意見)

・シニア世代をどのような方法でボランティアや市民活動に取り込むのか。

→「生涯現役フォーラム」が柱になると考えている。サポートセンターのみならず、生涯学習センターやボランティアセンター、シルバー人材センター、さらには市とも協働で開催する。アピール度も高いと思われる。

サポートセンター単独のものでは、4 S クラブを活用したい。さまざまな活動をしている方がいるため、何かしたいが何をすればよいかわからないという人にきっかけを提供できる。(指定管理者)

・4 S クラブの活動が、これまでの枠組みにとらわれてしまっているように思う。今後の在り方を検討していく必要があるのでは。

→現在はイベントの手伝いが主な活動。一つの活動を 20~30 年続けている人たちが集まっているので、これから地域で活動する人に対してその成果をレクチャーするなど、後進の育成にもつなげてもらいたい。検討していきたい。(指定管理者)

- ・イベントの手伝いは、これまでは4 Sクラブのメンバーが主な活動者だったが、今年度すでに実施されたイベントには学生ボランティアが多数参加していた。活動仲間が増えることはよいが、役割分担などは再考する必要があるように思った。シニア（女性メンバー含む）と学生の世代間交流もできるとよい。
- ・子ども連れの利用者にはキッズコーナー近くを優先的に予約する仕組みがあってもよいのでは。自分が会議中に、子ども連れの団体が来たから他へ移動してほしい、と言われてもよい気はしない。キッズコーナーを増やすこともよいが、事前に対策がとれるのでは。
- ・施設の運営管理は継続性のあるもの。指定管理者制度を導入している市施設が増えているが、4年ごとに指定管理者が変わる可能性があり、専門性の高い施設については賛成できない。サポートセンターは、うまく継続していけるのであればよいと思う。同じ事業者が長く続けることのメリット・デメリットがあると思うので、予算の問題だけでなく市と市民とで棲み分けを考えていければよいと思う。
 - 指定管理者制度について補足すると、サポートセンターは4年間を1サイクルとして、指定管理者の選考を行っている。今年度で現在のサポートセンターの指定管理期間が終了するため、今年度中に次年度からの指定管理者選考を行う。（市民生活課）
- ・4年という期間設定はどうか。3年では短いと感じるが。
 - 市の基本方針は4年間。施設の特性により、それ以上の期間としている施設はあるが、4年未満の施設はない。（市民生活課）
- ・助け合い組織やフードバンク支援事業について、町内会・自治会に話を持っていくときはもっと噛み砕いて具体的な内容を提示する必要があるのでは。
- ・昨年、市の指定NPO法人となったとのことだが、今年度県の指定NPO法人制度に申請をする予定はあるか。
 - 今年度は指定管理者選考があり、どちらも事務量が多いため、こちらを優先したい。県の指定NPO法人申請は次年度以降に行う予定。（指定管理者）
- ・近隣サポートセンターとの連携はどこが主体となるのか。横須賀市主体でやってもらいたいと考えるが。
 - 横須賀市のサポートセンターが主体となっていきたい。具体的な事例としては、企業・NPO・大学パートナーシップミーティングなどは、すでに呼びかけをしている。これを足がかりに学習会等を一緒に行っていきたいと考えている。（指定管理者）
 - 地理的な面で、逗子や葉山など市外の利用者も一定数いる。三浦半島の市民活動活性化ということでは、隣接する逗子市や三浦市、葉山町と協力していきたい。このなかでは逗子市が昨年度から指定管理者制度となったため、指定管理者間で話ができるようになった。

1-(4)夏の市民活動・ボランティア体験 2016 について

指定管理者から資料4をもとに企画を説明した。

(指定管理者)

- ・サポートセンター発足時からの事業。今年度は7月16日から8月31日まで。今まで市民活動やボランティアをしたことがない人を対象にした企画を団体を立ててもらい、サポートセンターが取りまとめ、広報する。

- ・今年度も、よこすかボランティアセンターと生涯学習センターとも連携して実施する。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・募集状況はどうか。
→申込件数はあまり伸びていない。
- ・昨年度の参加団体数はどうだったか。
→31 団体。今年度も少なくとも 20 団体は参加してもらいたい。
- ・関東学院大学への出張PRに団体は参加しないのか。
→大学側からいただいた時間が短いため、サポートセンター担当のみでPRに行く。
- ・大学への出張PRに参加する団体は決まっているか。
→未定。申込み締切り後に決定する。

2 議題

2- (1) データベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から資料5に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した（今回は年度初めということで、全登録団体一覧も添付）。

(指定管理者)

- ・年度末にデータベースの一斉見直しを行っているため、今回は削除団体が多い。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・フードバンクよこすかが解散して、規模縮小のうえ、フードバンク・横々準備会が新たに登録されたとのことだが、活動分野が異なるのはなぜか。
→団体が何を主体として活動していくか、という部分で、団体自らが登録票に記載した3分野。サポートセンターでは申請されたとおりに登録している。選択できる分野を3つにしているのはシステム上のもの。（指定管理者）
- ・活動していくうえでどこに重点をおくかを団体自身が考えることにもなるので、3分野に限定することはよいのでは。
- ・全団体一覧に法人格「その他」とあるが。
→「その他」という法人格はない。データベース登録票に「その他」欄があるため、そこにチェックがあれば、そのまま登録してしまっている。
また、登録票に公益社団法人と一般社団法人の区分がなかったり、認定NPO法人や指定NPO法人という新しい枠組みもでてきている。登録票を見直す時期にあるかも。（指定管理者）
→また、現在はデータベース管理をエクセルで行っているが、セキュリティの問題もある。今後、NPO向けにシステムを提供している事業者などと提携してクラウドシステムなどで管理することも視野に入れて検討している。（指定管理者）

3 その他

3- (1) 平成28年度市民協働推進補助金、モデル事業について

市民生活課より資料7および当日配布資料について説明があった。

(市民生活課)

- ・今後広報等で各団体のイベント等が発信される予定。
- ・平成 27 年度補助金交付事業の活動報告会が 6 月 3 日（金）に行われるので、そちらも興味があればぜひ参加を。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・申請 16 団体中、交付決定は 14 団体とのことだが、市民協働審議会にて審査されたものか。
→そのとおり。

3 - (2) サポートセンターより平成 28 年度開催予定の企画案内

指定管理者より当日配付資料について説明があった。

(指定管理者)

- ・様々な企画が目白押しなので、構成員メンバーにはぜひ参加・協力をお願いしたい。

連絡事項

(市民生活課)

- ・前回懇話会にて情報提供させていただいた施設配置適正化計画について、6 月の市議会に素案を提出予定。
- ・素案に対する市民意見聴取の第一段階として、懇話会にて意見をお聞かせいただきたいため、臨時で懇話会を開催させていただきたい。
- ・日程調整の結果、平成 28 年 6 月 27 日（月）18:30～サポートセンターにて開催予定。
- ・通常どおりに行う次回運営懇話会は平成 28 年 8 月 17 日（水）18:30～サポートセンターにて開催予定。

以上